

# やすらぎだより

12  
月  
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

業務執行理事コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第186号

## 「 去年の今時分 」

業務執行理事 植田 誠



コロナ禍の社会となって一年が経とうとしている。たった一年の違いで激変した2020年も、ほどなく年の瀬を迎える。誰しもが‘去年の今時分は・・・’と嘆く中、生活や環境とともに言葉の捉え方もこの一年で大きく変わったと言えよう。

今年の新語・流行語大賞に選ばれたのは「3密」であった。言わずもがな、コロナ関連の中から「密閉、密集、密接」の悪い意味として認知された‘密’という言葉、果たして以前から本当に好ましくない言葉なのだろうか。

かつては望ましい意味であったと理解する。「親密、濃密、密接」、いずれも私的には好ましい意味と解釈するが、コロナの被害者はここにも存在した。置かれた状況で一変するのが、実は言葉なのかも知れない。

コロナとは関係はないが、例えば‘老’という文字も時代によって意味が豹変した言葉だ。そもそも、「老中、大老、ご老公」の様に老は尊敬を集めた言葉だったが、いつの間にやらネガティブな表現で使用されることが多い。

極めつけは「老眼」、元々は老練な眼識を持つというプラスイメージであったものが、今では年を重ねた者のマイナスの症状としての代表格。かく言う私も、45歳の時に眼科医から‘貴方は立派な老眼です’と診断された身。事あるごとに本来の意味を発信し続けてきたつもりだが、当然のことながら世間の大勢には影響はない。

だがこだわりたい。特に、‘密’や‘老’のように本来の意味から大きく歪められた立場のモノへの擁護は、我々福祉人には欠かすことは出来ないものだという事。

師走を迎え気ぜわしくなり、つつい愚痴りがちにもなるが、コロナ禍以前を欲し羨むことは出来るだけ控えることとしよう。現状を受け入れながらも一つ一つの本質に目を向けることこそ、今を生きるこの時代には必要なのである。



### 社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- |                         |                |
|-------------------------|----------------|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園        | ○ケアハウス やすらぎ    |
| ○在宅サービス事業所<br>居宅介護支援事業所 | ○介護予防関連事業      |
| 訪問介護事業                  | ○グループホーム むつみあい |
| 訪問入浴介護事業                | ○住まいの生活支援事業    |
| ○短期入所生活介護事業             | ○グループホームなごみ筒井  |
| ○在宅介護支援センター             |                |
| ○天理市東部地域包括支援センター        |                |